

## 迹 王 の 餅



10月13日の秋祭りに継体天皇が大和国盤余玉穗宮イワレタマホノミヤに遷都された日を祝して迹王の餅を供する神事が今も連綿と受け継がれている。

この神事は、宵宮の10月12日早朝よりその年の当番に選ばれた若者堂宮各12名の家より大半桶ダイハンギに用意された餅を積んで、威勢の良い迹王の餅の唄声と共に街中を練り歩き、神前に献上する神事である。

この由来は皇子がこの地に潜竜の頃、常に深く御心を民事に留め

られ、その恩徳に報いるため郷民が餅をついて奉納したところ、皇子からも餅をついて郷民に下賜された故事に由って1500年の今日まで絶えることなく続けられている。粟田部で生まれた男児は堂と宮の講に加入することが出来て、加入す

ると毎年10月13日早朝に餅が貰えるが、やがて20代後半になると当番として勤める。

